

RCHR 第158回サロンの人権

話題提供：平山 亮氏

(大阪市立大学大学院文学研究科)

無料

6月16日（水）

午後1時30分～3時30分

オンライン開催を予定しています。

参加希望者はotazune@rchr.osaka-cu.ac.jpに

前日正午までにご連絡ください。

折り返し参加に必要な情報をお知らせします。

なおオンライン参加の困難な事情のある方は
ご相談ください。

高齢者の終末期から考える

ケア責任

「思案」「調整」という

ケアとは一般的に、日常生活に手助けが必要な人を支えることとして考えられています。このケアのなかには、受け手に対して直接的・具体的に行われる支え以上の〈何か〉が含まれていることが、ケア研究のなかで指摘されてきました。例えば、自分が受け手と直接関わることのできない場合でも、受け手に必要な支えが確実に提供される方法を考え、そのための手はずを整えておくという「思案」や「調整」は、そのような〈何か〉の1つです。

この講演では、高齢者の終末期に焦点を当てながら、「思案」や「調整」というケアの責任が、高齢者の家族に「丸投げ」されている現状を変えていくための課題を検討します。「思案」や「調整」の責任を誰かと分け持つ上での独特の難しさや、ケア責任の社会的分有（＝ケアの社会化）の議論が陥りやすい異性愛中心主義といった問題にも触れながら、「高齢者の最期をいかに支えるべきか」という議論に求められる視点や論点について考えます。